

---

# 2022 年度 事業報告書

---

〒202-0022 東京都西東京市柳沢 4 丁目 1 番 3 号



社会福祉法人 東京老人ホーム



# 目 次

I. 法人の事業経営	1
II. 施設サービス	8
1. 特別養護老人ホーム「めぐみ園」（ショートステイを含む）	10
2. 養護老人ホーム「東京老人ホーム」	12
3. 軽費老人ホーム「東京老人ホーム泉寮」	14
III. 在宅サービス	16
1. 老人居宅介護等事業「めぐみ園ホームヘルプサービス」	18
2. 居宅介護支援事業「めぐみ園指定居宅介護支援事業所」	20
3. 富士町地域包括支援センター（西東京市から受託）	22
IV. 事務・管理	24
1. 事務室（総務）	24
2. 事務室（経理）	25
3. 経営管理室	26
4. 食事室	27
V. 地域貢献	30

# I 法人の事業経営

## 2022 年度を振り返って

東京老人ホームは、昨年 2022 年に創立 99 周年を迎えました。12 月 13 日の創立記念日当日の礼拝は恒例でしたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から、2022 年度も一堂に会しての礼拝は見合わせ、館内放送を通して、祈りを共にしつつ、創立者たちの願いや思いを改めて思い起こし、「ミッションステートメント」に表明された東京老人ホームの「創立の理念」を確認しました。

まさに、時が良くても、悪くても、創立の理念に立ち返ること、忘れないことは大切です。そうすることによって、東京老人ホームの存在意義、存在理由が浮き彫りにされると思っています。長い歴史を歩んできているからこそ、初心を忘れず、原点に常に立ち帰って、自らの立ち位置を確認し、進むべき道を展望していくべきと考えています。

東京老人ホームのそもそもの出発点は、未曾有の災害となった 1923 年 9 月の、「関東大震災」でした。あの震災から学んだ教訓は決して忘れてはならず、継承されるべきものです。震災そのものの被害も甚大でしたが、その際に飛び交った流言飛語による被害も少なからずありました。いずれにしても、「正確な情報」と「的確な広報」が、被害を食い止める上で重要になります。出口の見えない新型コロナウイルス禍。それがもたらしている状況においても、「正確な情報」と「的確な広報」はますます必要不可欠です。「正確な情報」と「的確な広報」のための観察力、洞察力、掌握力、そして、冷静、沈着を身につけていきたいものです。

東京老人ホームの働きは、広がり、多様化してきています。長引く「コロナ禍」にあって、「ウイズコロナ」を前提に、社会の在り様、態勢そのものが変化してきています。その変化に適応するサービスが求められています。

厳しい状況にあって、職員たちは、「ウイズコロナ」のホームの新しい様式を模索しつつ、勇気をもって果敢に取り組んでいます。迅速さとの確性が求められています。それに即応すべく、職員全体が一丸となり、一つ心となるべく、フットワークの良さと柔らかな心を持ち続けることが重要であることを痛感しています。職員の献身的な努力に敬意を表します。

私たちが最優先すべきは、「利用者の方々が安心して、心豊かに毎日を過ごすことができる環境とサービスの提供」です。これは「ウイズコロナ」にあっても変わりません。この実現、充実を常に心がけてきましたし、今後も努力します。その努力が、優秀な人材の確保、定着、そして、専門職として、法人職員としての育成にもつながることでしょう。

地域の方々のご理解とご支援、ボランティアの方々のお働きに心から感謝いたします。

長く続いたコロナ禍の厳しい状況、トンネルの出口が見えてきたような気配も感じます。時を支配し給う全能の神を信じ、希望と愛と勇気をもって、目の前の、為すべき務めを、小さなことにも心を込めて果たしていきます。

理事長 徳野 昌博

## (2) 法人の経営報告

2022年度の収支バランスは、感染症発症による収入減や予防対策の費用、物価高騰による光熱費等の支出急増がありましたが、東京都などからの補助金、また、各事業所の運営努力や経費の節減、計画の未実施による支出減により概ね目標が達成されました。しかしながら支出は増額傾向で収入減の状態は、運営上限界でもあります。

前年に引き続きリモートによる活動の工夫で、地域コミュニティとの交流の機会は新しい方法も確立されてきましたが、長期にわたるサービス提供面などの活動自粛による利用者の心身レベルの低下は大きな課題です。

経営の数値については、およそ42,500千円の収支プラスとなりました。

## (3) 法人の経営事業

### ① 第一種社会福祉事業（施設事業）

- ア. 特別養護老人ホーム「めぐみ園」 (定員 80名)
- イ. 養護老人ホーム「東京老人ホーム」 (定員 50名)
- ウ. 軽費老人ホーム「東京老人ホーム泉寮」 (定員 100名)

### ② 第二種社会福祉事業（在宅事業）

- ア. 老人短期入所事業「めぐみ園」(ショートステイ) (定員 10名)
- イ. 老人居宅介護等事業「めぐみ園ホームヘルプサービス」

### ③ その他事業（在宅事業）

- ア. 居宅介護支援事業「めぐみ園指定居宅介護支援事業所」
- イ. 地域包括支援センター「富士町地域包括支援センター」(西東京市から受託)
- ウ. 高齢者配食サービス事業「西東京市高齢者配食サービス」(西東京市から受託)

## (4) 法人の組織（2023年3月31日現在）

### ① 役員

理事6名 理事長：徳野昌博 常務理事：高橋睦  
高山由美子 宮本新 関根麻美 森下真樹  
監事2名 水野重信 米田節子

### ② 評議員

評議員7名 榎純子 宇野正徳 増川明 立石節子  
森山亮二 関根裕恵 古財武久

## (5) 役員会、評議員会の開催報告

### ① 理事会

番号	開催日時	出席者		議 事
		理事	監事	
1	2022年 5月23日	6名	2名	(1)2021年度事業報告について (2)2021年度収支決算について (3)社会福祉充実計画について (4)経理規程の一部変更について (5)評議員会の開催とその議題について
2	2022年 9月26日	6名	2名	(1)就業規則等の一部改正について
3	2022年 11月14日	6名	2名	(1)2022年度一般会計収支予算（補正第1号） について (2)2023年度富士町地域包括支援センター事業 計画について
4	2023年 3月23日	6名	2名	(1)2022年度一般会計収支予算（補正第2号） について (2)2023年度事業計画について (3)2023年度一般会計収支予算について (4)就業規則等の一部改正について (5)役員賠償責任保険の加入更新について

### ② 監査

番号	開催日時	出席者	事 項
		(監事)	
1	2022年 5月13日	1名	(1)法人の財産の状況 (2)業務執行状況
2	2022年 5月13日	1名	(1)業務執行状況 (2)施設の運営状況 (3)施設のサービス状況

③ 評議員会

番号	開催日時	出席者		議 事
		評議員	その他	
1	2022年 6月17日	7名	理事 2名 監事 1名	(1) 議事録署名人の選任について (2) 2021年度 事業報告について (3) 2021年度 収支決算について (4) 社会福祉充実計画について

(6) 資産及び会計

① 経営事業の資産総額 [2023年3月31日現在]

資産総額 : 1,267,128,775円

これを6月の評議員会の決議を経て登記する。

② 会計決算収支の総計 [2022年4月1日～2023年3月31日]

事業活動 :	収入	963,847,950円		
	支出	909,865,703円	収支差額	53,982,247円
施設整備等 :	収入	421,000円		
	支出	9,239,543円	収支差額	△8,818,543円
その他の活動 :	収入	6,075,599円		
	支出	45,404,700円	収支差額	△39,329,101円
総 計 :	収入	970,344,549円		
	支出	964,509,946円	収支差額	5,834,603円

③ 法人監事による監査の実施 : 2023年5月17日(水)

**(7) 会議・委員会の開催 以下要確認**

① 会議

経営会議	毎月 第 1.3 月曜日
統括長会議	毎月 第 1.3 月曜日
管理者会議	毎月 最終月曜日
在宅部門会議	奇数月 第 2 月曜日

② 定例委員会

安全衛生委員会	毎月 第 4 火曜日
防災委員会	毎月 最終木曜日
広報委員会	毎月 第 2 火曜日
ボランティア委員会	4. 7. 10. 1. 3 月 第 4 月曜日
感染症対策委員会	5. 8. 10. 12. 2 月 第 3 金曜日
第三者委員会（苦情・事故）	6. 12 月 第 1 火曜日

③ その他

建て替えプロジェクト	毎月第 3 木曜日
創立百周年プロジェクト	毎月第 4 金曜日
地域取組検討委員会	毎月第 2 金曜日
片付け支援事業	毎月第 3 火曜日
いきいきさんデー実行委員会	原則 第 1. 3 金曜日
合同行事委員会	随時
ICT プロジェクト	随時

※上記、定例の会議および委員会についてはオンライン等を活用し適宜行いました。



## Ⅱ 施設サービス

### (1) 共通事項

#### ① 情報開示

法人発行の季刊誌「いきいきまち」やホームページ、介護サービスの公表制度（インターネット）、東京都が推進する「働きやすい福祉の職場宣言」、第三者評価機関による評価結果報告などにより関係する情報を公開しました。また、利用者やご家族に対しては、各施設からの広報誌を通じて様々な法人や施設の情報をお伝えしました。

#### ② 苦情解決

苦情・事故に関する報告を、年2回第三者委員へ行い、対策や対応に関する助言をいただき、再発の防止に役立てました。

日常における生活の様子やケアに関する情報を、ご家族等と共有するとともに、利用者懇談会や、意見箱などで意見をお聞きし、把握した課題を共有し、これらの情報を踏まえたより良いサービスの提供を行いました。

#### ③ 職員研修

感染防止対策を念頭に、ウェブによる法人外主催の研修へ参加や、内部研修の実施により職員個々の資質向上と組織力の向上に取り組みました。

#### ④ 身体拘束等の適正化

各施設の身体拘束に関する指針に基づき、身体拘束適正化委員会を中心に、職員研修等を実施し、身体拘束等の適正化に取り組みました。

#### ⑤ 施設の共通課題への取り組み

感染症対策や各種行政手続きなど施設間で共通する課題に対し、部門で協議し対応しました。



## 1. 特別養護老人ホーム「めぐみ園」(ショートステイを含む)

### (1) 運営報告

利用者お一人おひとりが、その方らしい生活を送る事を大切に支援しました。

とりわけ、めぐみ園が利用者にとっての終の棲家であるという視点に重点を置き、日常のケアの質の向上に取り組みました。

### (2) 課題と対応

#### ① 終の棲家としてのケアの実施

最期までその方らしい生活を送れるよう利用者及びご家族の思いを尊重した支援をしました。

#### ② 日常的な支援の在り方の見直し

嚥下機能を踏まえた食事の支援について、実技の研修を実施しました。その他、移乗や更衣など、利用者の身体状況に合わせた介護について研修を行いました。

#### ③ 医療をはじめとする他職種との連携の強化

各専門職が連携して日常の生活や健康への支援を実施しました。とりわけ、栄養、経口維持、自立支援において、介護、医療、栄養が共有する計画を基に支援にあたりました。

#### ④ 尊厳・権利擁護の視点に立ったケアの実施

苦情や要望については、その都度速やかに対応しました。また尊厳や権利擁護について、部署内研修等で学び、利用者の立場に立ったケアを実践しました。

#### ⑤ 地域とのつながり・地域貢献

新型コロナウイルス感染予防を踏まえ、地域交流行事に参加しました。また、小学校において高齢者について学ぶ授業の講師や高齢者疑似体験の授業を行う等、地域の方々へ福祉・介護の啓発に取り組みました。

#### ⑥ リスクマネジメントの取り組み

利用者の安全な生活を支えるため、感染症予防研修や事故防止研修等を行ない、対応方法の標準化を図りました。

#### ⑦ 職員の能力の向上

個々の職員に合ったOJTの実施のための部署内研修を行い職員の能力向上に取り組みました。その他、課題に応じた外部研修に参加しました。

### (3) 苦情・事故報告

#### ① 苦情の再発防止に対する取り組み

利用者やご家族からの苦情等について都度対応し、再発防止に取り組みました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0件	5件	0件	2件	7件

#### ② 事故の再発防止に対する取り組み

軽微な事故についても報告し、居室担当を中心に事故対策の振り返りを行い、再発防止に努めました。また、年2回の研修については、実技による実践的な研修を行い、スキルアップに繋がりました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に係る事故	その他	合計
事故件数	143件	38件	306件	62件	551件

### (4) 年間行事報告

年	月	内容
2022	5月他	変わり湯（菖蒲、森の香り、オレンジ、桃、柚子）
	毎月	お誕生日会
	6・11月	わんわん村
	7月	七夕飾りつけ
	6～11月	園芸
	9月	お買い物イベント『MEGU HOUSE』、敬老お食事会
	12月	クリスマスランチ(1階のみ、2階はコロナ発生あり中止)

### (5) ショートステイサービス

高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるようにサービス提供し2021年度に比べ利用人数が増加しました。緊急ショートステイ事業においては利用者やその家族関係者の状況を把握し行政等と連携を取りながら利用者の生活再建の一助となるよう努めました。新型コロナウイルス感染予防のためにも、入所時の体調確認を徹底して行いました。

### (6) 実習生

新型コロナウイルス感染対策をとりつつ、社会福祉士の実習の受け入れは行いました。また、生活相談員が大学の実習の授業において講師を務めました。

## 2. 養護老人ホーム「東京老人ホーム」

### (1) 運営報告

新型コロナウイルス感染症の長期化によりストレスや不安を抱える利用者のケアに努めました。施設内行事については感染に留意しながら可能な範囲で実施し生活の質を保てるよう努めました。

### (2) 課題と対応

#### ① 個別サービス計画の作成と個々の生活課題に即した支援

個別サービス計画の作成・見直しについては生活相談員、各居室担当を中心に行いました。利用者の心身の変化については日々のミーティングで共有および支援検討を行い、計画にも反映しました。

#### ② セーフティネットとしての役割の遂行

部署内で緊急入所の必要性、養護老人ホームが果たすべき役割について改めて確認し早急に入所が必要な方へ組織として対応できるようにしました。本年度は措置機関より2件の緊急受入れ要請があり、いずれも迅速な受入対応を行いました。

#### ③ 新型コロナウイルスへの対応

本年度も発症者が出たことを想定した初動訓練を実施しました。定期的に防護服の着用を相互チェック、感染対応の注意喚起を実施しました。施設内で感染者が発生しましたが日頃の訓練が活かされ迅速に対応を行うことができました。

#### ④ リスクマネジメントへの対応

運営に関するリスクについては定期的に検討の場を設けました。新型コロナウイルス感染対応と利用者の生活の質のバランスについて次年度も運営課題として引き続き検討していきます。

### (3) 苦情・事故報告

#### ① 苦情の再発防止に対する取り組み

利用者とのコミュニケーションから苦情の芽を摘んで事前に対応することを心掛けています。利用者の声を拾っていただけるようにこれからもコミュニケーションを大切にしていきます。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	1件	2件	0件	1件	4件

② 事故の再発防止に対する取り組み

服薬に関する事故については職員によるヒューマンエラーの他、利用者自身で服薬管理をしていたが服薬できていなかったケース、服薬時の落薬などが見られました。服薬管理については次年度の重要課題として取り組んで行きたいと思っております。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	32件	15件	1件	6件	54件

(4) 年間行事報告

年	月	内容
2022	4	お花見
	5	利用者懇談会・しょうぶ湯・春のお食事会・ティールーム・ひがしふしみ保育園交流会
	6	衣類販売会・大掃除・体力測定
	7	七夕飾り
	8	ティールーム・利用者懇談会
	10	お楽しみおやつ
	11	衣類販売会・大掃除・体力測定・実りの秋のお食事会
	12	ゆず湯・クリスマスランチ・クリスマス交流会（三鷹福音教会）
2023	1	新年会・ひがしふしみ保育園交流会
	2	利用者懇談会・介護予防講習会
	3	利用者懇談会・ティールーム

(5) 地域交流

保育園や近隣の教育機関との交流については今年度もオンラインを活用することで世代間交流を図ることができました。

(6) 医務関係

新型コロナウイルスについては感染者が発生しましたがいずれも感染が拡大することなく最小限に留めることが出来ました。

(7) 法人内施設軽費老人ホームとの連携

保育園や教育機関との交流行事において軽費老人ホーム泉寮と連携し、オンラインを活用して相互の利用者の交流を図ることが出来ました。

### 3. 軽費老人ホーム「東京老人ホーム泉寮」

#### (1) 運営報告

2022 年度もコロナ禍にあり、法人の理念に基づきお一人おひとりが地域の一員としてその方らしく暮らせるようにという願いはなかなか困難な一年となりました。

地域のさまざまな活動も自粛のため、利用者それぞれの生きがいや楽しみの活動も制限がありましたが、感染予防対策をしつつ WEB の活用やリモートによる交流で、新しい楽しみ方を体験することが出来ました。感染対策などにより、幸いなことに施設内での広範囲な感染の広がり無く過ごすことが出来ました。残念ながら外出の機会の減少は心身共に低下をもたらし、転倒などの要因の 1 つとなっています。

年が明けて感染状況が低下してきており、新規入居希望者については徐々に増えてきていますが、さまざまな面でまだ油断は禁物です。

#### (2) 課題と対応

##### ① 感染予防に向けた取り組み

感染症流行の動向を鑑み、感染症対策委員会を中心に方針を決定し、濃厚接触者疑い等が生じた場合は、マニュアルや国が定める基準に従い、ご家族や外部サービス等と連携を図りました。2 月頃から 5 類引き下げを視野に緩和策を検討し始めました。

##### ② 医療・介護サービスとの連携

居室担当が担う役割を拡充し、サービス担当者会議にも主体的に参加しました。介護サービスとの協力、連携を図りながら、泉寮で安心して暮らせるよう支援しました。

##### ③ 新しい生活様式の構築

クラブや行事について、改善した通信環境を積極的に用いて実施しました。感染対策をしながら、対面による歌のクラブを再開しました。

##### ④ 利用者と職員の安全への取り組み

事故については原因をミーティングで話し合い、対策から事後評価まで居室担当を中心に実践しました。労働災害防止については、ミーティングで随時対策しましたが、ヒヤリハットなど活用に改善の余地を残しました。

##### ⑤ 新たな記録システムの活用

法人のネットワークを用いたシステム上のアプリを活用し、アセスメント、プランの作成を行うなど、段階的に各種帳票も切り替えを進めました。

### (3) 苦情・事故報告

#### ① 苦情の再発防止に対する取り組み

コロナ禍における利用者同士の会話など、感染対策を取りながらも生活の場である点も踏まえ、対応方法を見直していきました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	1件	1件	0件	0件	2件

#### ② 事故の再発防止に対する取り組み

転倒事故は昨年比で微減となっていますが、フレイル予防が課題となっています。居室担当を中心に原因追及、対策、対策後の評価の上、外部サービスの活用などに努めました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	43件	12件	3件	2件	60件

### (4) 年間行事報告

年	月	内容
2022	4	イースターメッセージ、イースター礼拝、お花見の会（桜の名所DVD）
	5	ステイホーム国内旅行（京都旅行YouTube使用）
	6	聖霊降臨日礼拝、映画観賞会、ひがしふしみ保育園交流会（ラジオ体操）
	7	七夕飾り、利用者健康診断（市健診）、納涼会
	8	納涼会（花火映像と軽食）、作品展準備（合同作品）、西東京市健診
	9	作品展出展、敬老祝賀メッセージ
	11	豚汁を楽しむ会、宗教改革記念ビデオ礼拝
	12	クリスマス飾り、クリスマスランチ、利用者健康診断、創立記念礼拝
2023	1	ぜんざいを楽しむ会、田無高校ニューイヤーコンサート
	2	ひがしふしみ保育園卒園プレゼント、DVD鑑賞会
	3	四旬節ビデオ礼拝

### (5) 法人内養護老人ホームとの連携

養護・軽費で協力し、保育園交流事業でプレゼントやメッセージカードの交換を行いました。

### (6) 介護予防への取り組み

身体機能が低下しない様にソーシャルディスタンスや換気、パーテーションを設置した形でできる行事、映画観賞会などを実施しました。

## Ⅲ 在宅サービス

### (1) 共通事項

#### ① 職員の資質向上

部署ごとに計画的かつ、職員の能力に合わせた研修を実施し資質の向上に取り組みました。また、在宅部門共通の研修テーマについては新型コロナウイルス感染防止対策として各部署にて実施しました。

#### ② ケアチームの連携強化

利用者の望む生活に向け、医療・介護の細やかな連携を図り支援を行いました。また、新型コロナウイルス感染症などの情報についても関係機関と連携を図り、迅速な対応に繋げることができました。

#### ③ 苦情解決

苦情や日々のサービスに関する要望などに対して、人権擁護と利用者本位のサービス提供を鑑み、迅速かつ早期解決に努めました。サービスの質の向上に向け、第三者委員会での助言を部門内で共有を図りました。



## 1. 老人居宅介護等事業「めぐみ園ホームヘルプサービス」

### (1) 運営報告

利用者・ご家族の心身の状況を踏まえ、その方らしい生活が実現できるよう可能な限り利用者本人の自立と生活機能の維持の視点でサービス提供を行うとともに、介護支援専門員やその他の関係機関との連携を図り、住み慣れた在宅の生活維持に向けて支援を行ってまいりました。

### (2) 課題と対応

#### ① 職員のスキルアップ

個別研修については、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、オンラインを活用し実施しました。また、技術研修については、利用者宅での実践指導を行いました。次年度も継続して個別研修を実施し、介護技術の向上に努めていきます。

#### ② 自立支援をふまえたサービスの提供

利用者の心身能力に合わせた、自立支援（見守り支援）に重点をおいたことにより、心身機能の維持・向上に繋げることができました。次年度も取り組みを継続していきます。

#### ③ 感染症対応の強化

新型コロナウイルス感染症に職員が罹患した場合でもサービス提供及び事務業務が継続できるよう、各業務に対し複数で関わる体制を構築し、業務対応を行いました。

#### ④ 法人内各部署との連携強化

法人内施設利用者に対し、関係部署間で細やかな連携を図ったことで、迅速にサービス提供を行うことができました。新型コロナウイルスに関する情報についても迅速な連携を図り適切な対応を図ることができました。

#### ⑤ リスクマネジメントの徹底

本年度は、利用者宅へ移動中の自転車転倒事故が2件発生しました。幸い大きなケガには至りませんでした。労働災害に繋がる大きなリスクとなっています。引き続き次年度も、そのリスクに対し軽減対策を検討、実施していきます。

### (3) 苦情・事故報告

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0	0	0	0	0

#### ① 事故の再発防止に対する取り組み

全職員が参加するミーティングにて、事故防止研修を実施しました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	0	0	0	4	4

### (4) 年間報告

年	月	内容
2022	6	西東京市訪問介護分科会
2022	10	武蔵野市主催『医療的ケア研修』（オンライン形式）
2022	11	東京都主催『高齢者虐待防止研修』 武蔵野市主催『医療的ケア研修』（オンライン形式）
2023	2	東京都集団指導（オンライン形式）
2023	3	西東京市訪問介護分科会

※ヘルパーミーティングは、4月～6月書面開催 7月以降は対面開催

※サービス提供責任者会議については毎月実施

※個別研修については、年間計画に則り実施

※武蔵野市主催の訪問介護分科会は年間通して中止

## 2. 居宅介護支援事業「めぐみ園指定居宅介護支援事業所」

### (1) 運営報告

利用者の意志及び生き方を尊重し、常に利用者の立場に立って可能な限り自立した生活と残存能力（介護予防）をいかにすることを念頭に支援いたしました。

### (2) 課題と対応

#### ① 利用者の自立支援、自己実現

利用者、ご家族の望む生活と生活課題を一緒に考え、残された能力（強み）をいかしていく視点で課題分析を行い生活の質の向上に向け支援を行いました。それまでの歴史や背景の理解に努め、『その人らしい』ケアプランになるよう目標を一緒に考え自立支援を行いました。

#### ② 介護支援専門員の資質・専門性の向上（ケアマネジメントの充実）

自立支援の観点から幅の広いニーズを導き、その人らしい『真のニーズ』をケアプランに反映できるよう、リ・アセスメントシート手法を通しての事例検討、又それぞれの研修目標に沿ってテーマごと研修を行いました。

#### ③ 地域の行政・医療・介護・社会福祉関係機関との連携強化

在宅の看取り、医療依存度が高い利用者に適宜対応できるよう、医療連携シート活用に加え、連絡を密に行い入退院時に備えました。又、虐待ケースが増加している為、包括支援センター、市役所、並びに関係機関との連絡の強化に努めました。

#### ④ 法人内施設との連携強化

法人内の各施設サービス窓口を通じ、情報の共有と連絡調整を行い重度化に即した支援を行いました。新型コロナウイルス等感染症に対する情報共有を迅速に行いました。

#### ⑤ リスクマネジメントの徹底

利用者が安心して在宅での生活を送れるよう、感染症予防や、職員の安全衛生のリスクマネジメントを行ってきました。業務においては、在宅サービスにおける関係法令の周知徹底を図りました。

### (3) 苦情・事故報告

#### ① 苦情の再発防止に対する取り組み

速やかに情報を収集したうえで対応し、調査、検討、共有し再発防止に努めている。利用者・ご家族の言葉や表情を読み取り丁寧な対応につながるよう今後も努めます。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	1	0	0	0	1

② 事故の再発防止に対する取り組み

スケジュール確認不足からサービス調整が失念したケースが1件、国保連請求に関する事故が1件あった。自身だけでなく職員全体のスケジュールへの記入も徹底していくことを引き続き行います。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に係る事故	その他	合計
事故件数	0	0	0	2	2

(4) 年間報告（年間回数）

- \* 西東京市主任ケアマネ質の向上部会（10回）
- \* 西東京市質の向上リアセスメントコア会議（2回）
- \* 西東京市南部圏域事例検討会 zoom（5回）
- \* 西東京市中部圏域事例検討会 zoom（4回）
- \* 西東京市地域リレーションシップ部会主催・地域交流会（2回）
- \* 西原包括支援センター主催・医療連携研修（1回）
- \* 西原包括支援センター主催 ACP 研修（1回）
- \* 西東京市医療連携部会研修（2回）
- \* 西東京市制度部会研修（2回）
- \* 西東京市居宅分科会（1回）
- \* 西東京市管理者研修（1回）
- \* 西東京市主催「アセスメント力をブラッシュアップ」研修（1回）
- \* 西東京市主催「お泊りデイについて考える」（1回）
- \* 東京都国保連合会主催「介護サービスにおける認知症ケア」zoom（1回）
- \* 東京都保健福祉局主催「若年性認知症」zoom（1回）
- \* 特定事業所加算合同事例研修（1回）

(5) 特定事業所加算

加算事業継続の要件である介護支援専門員実務研修の実習生の受け入れは、感染症予防の為中止となった。他法人との事例を通じての研修においては10事業所参加にて対面にて開催しました。

### 3. 富士町地域包括支援センター（西東京市から受託）

#### (1) 運営報告

富士町地域包括支援センターは高齢者が住み慣れた地域で安心して尊厳あるその人らしい生活を継続できるよう、心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行い、保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援致します。2022年度においても、西東京市との委託契約に基づき、業務を実施しました。

#### (2) 事業内容

##### ① 総合相談支援業務

地域の高齢者に関するさまざまな相談を受け、実態把握の上、適切な制度・サービスにつなぎ、継続支援を行いました。年間の相談件数は4634件となっています。相談内容は介護保険サービス、医療、状況確認、高齢者福祉サービス、高齢者虐待、認知症、ケアマネジャー支援、経済的問題の順に多くなっています。閉じこもり傾向のある高齢者や独居高齢者へのアウトリーチに力を入れ、支援につなげています。

##### ② 権利擁護業務

支援者や民生委員等から多数の相談がありました。年間20件の虐待ケースに対応しています。その他、権利擁護や消費者被害に関する支援を行いました。

担当地域のケアマネジャーに対して高齢者虐待に関する講座を実施しました。

##### ③ 包括的継続的ケアマネジメント業務

ケアマネジャーの実践力向上に向け、後方支援、事例検討会、交流会を行いました。また、関係機関との連携体制の構築に向け積極的に情報共有を行いました。

##### ④ 介護予防・日常生活支援総合事業

要支援1・2、事業対象者の認定を受けた利用者を対象とするケアプラン作成・給付管理を行いました。2022年度のケアプラン数は1889件となっています。

短期集中予防サービス通所型サービスCのモデル事業として、所内では4件のプラン作成をしています。

地域のサロンの継続支援、いきいき百歳体操の普及啓発を行いました。

##### ⑤ 地域ケア会議

地域ケア会議Ⅰを3回（課題解決型2回、自立支援・介護予防型1回）実施しました。専門職等による地域ケア会議Ⅱを2回開催、高齢者の孤立・孤独をなくすためのネットワーク構築について検討しました。

⑥ 認知症総合支援事業

認知症サポーター養成講座を2回、若年性認知症のご家族を対象とした「かえるの会」を4回実施しております。認知症を知る1か月キャンペーンでは講演会やパネル展示などを実施しました。認知症カフェは3団体の運営に関わりました。包括主催では隔月で家族会を実施しています。

⑦ 生活体制整備事業

生活支援コーディネーターや、ささえあい訪問協力員から相談のあった高齢者の支援を行いました。ささえあい養成研修の講師として連携しています。また、ささえあい懇話会では、地域での孤立（独）死の現状について講師として出席しています。

⑧ フレイル予防事業

担当係と連携し、地域の高齢者にフレイル予防の普及啓発を行いました。

**(3) 苦情・事故報告**

① 苦情の再発防止に対する取り組み

利用者の状態に応じた要介護認定とサービスの必要性を所内で共有しました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0	1	0	1	2

② 事故の再発防止に対する取り組み

退勤時のチェックリストを作成し、複数名での確認を徹底しています。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に係る事故	その他	合計
事故件数	0	0	0	1	1

**(4) 年間報告**

全 389 件。うち、会議 130 件、運営・講師等 58 件、研修受講 58 件、その他の普及啓発活動 60 件となっています。高齢者福祉サービス調査表作成は 41 件でした。

**(5) その他**

国立看護大学校の実習生を 5 名受け入れました。

## IV 事務・管理

### 1. 事務室（総務）

#### (1) 運営報告

事務室（総務）は、運営とサービス提供の担い手である職員の職場環境（ハードとソフト）の整備及び帰属意識の浸透と定着を中心に下記の通り計画を実施しました。

#### (2) 課題と対応

##### ① 働きやすい職場環境整備

育児・介護休業法の改正に伴い、手続きの整備、職員への制度周知等を行う他、事業主行動計画に基づき育児・介護休業の制度について管理者向け研修を実施しました。とりわけ手続きの整備においては、産休または育休を取得する職員に対し「面談シート」を活用して管理者との面談を重ねることで、相互に安心して復職できる環境作りに寄与することができました。

また2022年8月には、女性活躍推進法に基づく「えるぼし」の認定を受けました。次年度に向けても、仕事と家庭の両立支援を継続的に実施し、より良い職場環境を目指します。

##### ② 職場のコミュニケーションを活性化する取り組み

コロナ禍で主流となったオンライン会議と研修の手法に倣い、部署間交流を目的とした職員コミュニケーション動画を作成し法人内に配信しました。目標としていた双方向交流には至りませんでした。次の職場へバトンをつなぐレイ形式の動画を作成することで、部署を超えた繋がりが持てるよう努めました。

##### ③ 職員の採用と定着の促進による人材確保

新卒採用においては、感染対策を講じながら対面によるインターンシップを再開させたことで、介護業界への志望度が高い学生の参加が増えた他、新たな合同説明会にも出展し、現場の若手職員で構成される新規採用チームが主体的に活躍できる場を設けながら、学生の動向に合わせた採用活動に取り組みました。

また、法人LINEを取り入れたことで、説明会への参加者増につながると共に、学生との気軽な連絡手段の確立にも繋がりました。

更に、ホームページの採用サイトを求職者目線にリニューアルして法人サイトから独立させたことで、求職者が求める情報を検索しやすくなり、アクセス増にも繋がっています。

中途採用においては採用と定着に対する意識向上を目的として、部署の特徴や求める人物像など詳細な求人情報を管理者から収集することで、管理者と共に積極的な求

人活動に取り組んでいます。

これらの活動により繋がった学生及び求職者については、個々の動向を見極めながら、採用に繋がられるよう引き続き取り組んで参ります。

## 2. 事務室（経理）

### (1) 運営報告

事務室（経理）として、法人全体の収支状況を管理し、サービス提供に支障がないよう予算の執行及び管理を適切に行いました。

### (2) 課題と対応

#### ① 経費削減への取り組み

消耗品等の時期を値上げ前に設定し、一括購入することで価格交渉することができ、経費削減へとつながりました。

#### ② 予算管理

各事業所の計画に沿った予算を作成し、収支状況を管理しました。

### 3. 経営管理室

#### (1) 運営報告

収入と支出のバランスを注視しながら、施設運営に必要な設備機器の更新を、優先順位を踏まえ実施しました。複数業者による見積比較、自主修繕の取り組み、割賦やリース契約による資金調達等により、効率的な資金活用に努めました。

#### (2) 課題と対応

##### ① ナースコールの更新

2022年度は、1.2階のナースコール故障に伴い早急な対応が必要となり、1.2階のみナースコールを更新しました。3階から5階は、2023年2月に業者との契約を済ませ、次年度7月頃更新工事の予定です。

##### ② 厨房等LED照明の更新

新型コロナウイルス感染症の感染状況が比較のおさまったタイミングで、ロビーや居室、厨房、配膳室、浴室等の場所をLED照明に改修しました。使用電力を大幅に削減し、電気料金高騰への有効な対応策となりました。

##### ③ 在宅部門の介護報酬請求システムの更新

複数業者で見積を比較し、最安値の業者に「在宅部門の介護請求システム」を更新しました。半導体不足の影響で、サーバー等の機器の調達が困難な状況でしたが、2022年6月の運用開始に間に合わせることができました。

##### ④ 大規模改修工事5年目点検及び中間修繕の要否判定

大規模改修工事の最後となる「5年点検」を行い、経年劣化した屋上シーリングの補修を実施しました。地下電気室の扉の上に、水切りを設け、防水対策を行いました。その後、屋上平場の防水保護シートの劣化も判明したため、次年度以降、設計士に相談の上、追加対策の要否を検討予定です。

## 4. 食事室

### (1) 運営報告

栄養バランスのとれた食事作りを心掛けるとともに、お食事から季節を感じていただけるよう、旬の食材を取り入れた献立作りに取り組みました。また、利用者お一人おひとりの状態に合わせた食事を提供することで、健康の保持増進に努めました。

配食サービスにおいては、おいしく安全な昼食を定期的にお届けし、当該高齢者の健康状態の把握及び安否確認を行うと共に、孤独感を緩和することで、住み慣れた場所で安心して暮らす事の出来る環境作りを支援しました。

### (2) 課題と対応

#### 【施設】

#### ① 利用者に喜ばれる食事の工夫

季節ごとに行事食を取り入れ、食事から季節を感じていただけるよう取り組みました。また新メニューを導入する事で、飽きのこない献立作りにも努めました。

#### ② 多職種連携

感染症対策のため利用者の食事状況把握が難しい中、介護記録ソフト・電子会議室を有効活用し状況の把握・共有を行い、多職種で連携し課題の改善に取り組みました。

#### ③ 感染症対策

安全な食事の提供のため、食品衛生管理に努めました。保健所が行う「食品衛生監視票」においても高い評価をいただきました。また、新型コロナウイルス感染においても予防対策を実施すると共に、発生時には感染拡大防止に努めました。

#### ④ 献立ソフトの更新

献立ソフトの更新を行いました。クラウド上で使用できるため、データの安全性確保、テレワーク対応と共に、作業効率の向上にもつながりました。

#### 【配食サービス】

#### ① 安否確認について

「継続的に訪問し安否確認をする配食サービス事業」を通じて、住み慣れた住まいでの生活を安心してすごして頂けるよう努めました。

#### ② 利用者状態・ニーズの把握

西東京市・ケアマネ・ご家族と連携し、アンケート等により利用者の状態の把握に努め、利用者の状態に合わせた食形態・制限食の提供を実施しました。

③ 事故の未然防止に向けての取り組み

ヒヤリマップの更新を行い、危険個所を共有することで、事故を未然に防ぎました。配達員の事故に対する意識向上に努め、今年度も事故0で配達できました。

**(3) 苦情・事故報告**

① 苦情の再発防止に対する取り組み

各施設職員と連携をとり、利用者の状況・ニーズの把握に努め、苦情の発生防止に取り組みました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0件	0件	0件	0件	0件

② 事故の再発防止に対する取り組み

過去に発生件数が多かった異物混入事故の対策を日々実施し、再発防止に取り組みました。定期的に調理員へ対策を指導することで、事故防止への意識を高めました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に係る事故	その他	合計
事故件数	0件	0件	0件	3件	3件

**(4) 年間報告**

年	月	内容
2022	4	配達員研修（自転車安全講習・マナー・モラル・コンプライアンス）
	7	感染症研修
	12	感染症研修

**(5) 会食の実施**

例年、閉じこもり防止や孤独感を緩和する目的で、配食サービス利用者をホーム別館にお迎えし、会食を実施していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、本年度は実施を見送りました。

**(6) 配食サービス事業プロポーザルへの参加**

再契約（5年毎）のためプロポーザルに参加しました。書類選考、プレゼン、実食を経て2023年度、新町・東伏見・柳沢・南町・向台町を担当することになりました。



## V 地域貢献

### (1) 活動内容

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、外部と直接的な交流を伴うイベントは中止しております。その中で、法人独自の取り組みを検討し、出来る範囲で地域との連携を図りました。

#### ① 片付け支援事業

高齢者の溜め込みと孤立、制度の狭間への取り組みです。片付け支援を通し、サービスにつながる事で安全な生活環境を維持し、地域のネットワークの再構築を図る事を目的としています。実行委員会を中心に準備を進め、2022年7月より事業開始しています。3件の支援を実施しています。介護保険サービスの利用につながった、寝る場所が確保された、支援者と関係を築く事ができたなどの報告を受けております。委員会として、ノウハウを蓄積することが出来ました。

#### ② いきいきさんデー（毎年10月、日曜日）

高齢者福祉の情報発信を軸に、地域との交流を図るお祭りイベントです。地域の学生による演奏や、団体による出店等、地域とのつながりを大切にしています。2022年度は「地域交流、今出来ること～オンラインでつながろう Part2～」をタイトルに、近隣の小中学校と国際理美容専門学校の先生方とオンラインで交流を図りました。生徒の発表動画や美容講座のライブ配信、保谷第二小学校校長・学校運営協議会による講演、参加者交流では「これからの地域交流～つながりの種をまこう」をタイトルに、意見交換を行いました。利用83名、職員30名が参加しております。地域のつながりを実感出来るイベントとなりました。

#### ③ ぽぽたんカフェ（毎年5月、土曜日）

職員がカフェスタッフとなり、カフェを通じて利用者と家族、地域の方へのおもてなしをします。地域の学生団体による生演奏も行っております。2022年度も中止しております。

#### ④ 地域への取り組み

おひさまカフェに代わる活動として、委員会で検討を重ねました。地域との関わりが少ない高齢者が、自信をもって主体的に参加できる場を目指し、保谷第二小学校「花プロジェクト」に関連し、花を使った作品を作成するなど、2023年度開始に向けての方向性を出しました。

⑤ 西東京市社会福祉法人連絡会との連携

「住みやすい安心して暮らせる地域」をスローガンとした上記連絡会の会員として事業に協力、フードドライブに参加しています。

⑥ その他、地域との連携

柳沢小学校に出向き、高齢者疑似体験と車いす操作体験の授業を行いました。高齢者と介護について知っていただく機会となりました。

保谷第二小学校「あんぜんの日」に参加、防災に係る体験学習として、三角巾の使用方法について授業をしました。

保谷第二小学校市民科プログラム「花プロジェクト」に参画しています。児童が育てた花を施設利用者に贈る、施設利用者から球根を児童に贈るなど、交流を図りました。